

# 北東アジア地域の環境保全と国際協調をめぐる 中国近年の研究

戴 宇

## 一、

1949年に発足した新中国は建国間もなく、国づくりを始めました。20世紀の50年代から、重工業を中心とする工業化戦略を実施してきました。大規模な工業建設が実施されるにつれて、環境汚染問題が出てくるようになりました。特に1950年代末ごろの「大躍進」のなかで、当時の中国は工業の超スピードの増長を実現するために、「鋼を以って、綱とする」という工業発展戦略を実施しましたので、全国各地で技術が立ち後れ、汚染をふりまく鉄鋼場を盲目的に造り、広い範囲で、大きく生態を破壊してしまいました。

60年代以後の十年間においては、中国の国内と世界情勢の変化に対応するために、独立して自給自足の工業システムを作ることがますます強調されるようになりました。そこで、中国の中部地方と西部地方で、汚染がひどい重工業を発展させるようになりました。

70年代以後、環境汚染事件がたくさん発生しました。ストックホルム人類環境大会の影響のもとで、中国政府が環境問題を重視するようになり、環境汚染問題の解決に取りかかりました。1973年に国務院環境保護指導グループ及びその事務室を設けました。これがその後、中国国家環境保護総局になりました。70年代末以降、中国は20年間続いて、高度成長の経済発展を成し遂げました。しかし、その一方で、環境汚染の問題がますます悪化の気配を見せてきました。主要な都市の大気環境と重要な河川と湖などは相当汚染されています。そこで、環境汚染と生態破壊を防止するために、中国政府が外国の環境政策を参考にして、80年代に環境政策体系を立て、環境保護を中国の基本国策のひとつにしました。90年代に入って、特に、1992年に国連の環境と発展大会以後、「持続可能な発展戦略」が中国の国家戦略の基本方針になりました。言わば、環境問題が国のひとつの重要な問題にされました。(以上は元東郁『趨同与分散——東北亜三国国内環境政策比較』(『当代韓国』2004年夏季号)による)

これを背景にして、20世紀90年代から、特にここ五六年の間、中国においては、環境問題に関する研究が多くなりました。そして、環境問題はもう一カ国の問題に止まらず、多国間の協力が必要であることも認識されるようになりました。その表れの一つとして、環境保全と国際協調をめぐる研究が近年、中国においては、増えるようになりました。そのうち、北東アジア地域の環境保全と国際協調をめぐる研究が少なくありません。ここにおいては、近

年の中国の北東アジア地域の環境保全と国際協調に関する研究を簡単に紹介させていただきたいと思います。

## 二、

90年代から、今日まで、北東アジア地域の環境保全と国際協調をめぐる研究は、主として次のものがあります。

1. 張海濱『東北亞地区環境合作述評』『当代亞太』1996年8月25日。
2. 張海濱『論中国的環境外交』（北京大学博士学位論文）1997年1月。
3. 徐嵩齡『中国——東北亞国家之間的環境合作：狀況分析与評価』『東北亞論壇』2002年2月28日。
4. 元東郁『東北亞地区環境合作的現状与方向：權力、利益和知識的互動作用研究』（北京大学博士学位論文）2002年6月。
5. 趙光瑞『東北亞区域環境問題的制度探源与解決对策』『東北亞論壇』2003年9月20日。
6. 元東郁『趨同与分散——東北亞三国国内環境政策比較』『当代韓國』2004年夏季号。
7. 余維海『中日環境合作述評』『日本研究』2006年第3号。
8. 陳英姿『東北亞環境与發展的國際合作』中国環境科学学会2006年學術年会發表、2006年5月1日。
9. 李月美『東北亞環境合作研究』（青島大学修士學位論文）2006年5月。
10. 郭延軍『東北亞環境安全研究』（山東大学博士学位論文）2007年4月。
11. 佟新華『基于清潔開展機制的東北亞環境合作研究』（吉林大学博士学位論文）2007年。
12. 丁金光『國際環境外交』、中国社会科学出版社、2007年1月。
13. 李艷霞『東北亞地区的環境安全問題』（吉林大学修士學位論文）2007年4月。
14. 成海燕『韓國環境外交解析』（青島大学修士學位論文）2007年5月。
15. 陳霏『中日韓酸雨問題合作研究』（青島大学修士學位論文）2007年6月。
16. 張海濱『中日關係中的環境合作：減震器還是引擎』『亞非縱橫』2008年第2号。
17. 高莹『中日環境合作研究』（青島大学修士學位論文）2008年5月。
18. 郭琳、劉桂環『日韓環境政策对中国的啓示』『環境保護』2008年12月25日。
19. 王朝梁『論中国与東北亞隣国就解决跨境酸雨污染問題的区域合作機制』『河北大学学报』（哲学社会科学版）2008年12月25日。
20. 董立延、于洋『東北亞区域環境合作对推動東北振興的作用』『社会科学戰線』2009年2月1日。
21. 郭印『中日韓三国開展環保NGO交流与合作的探索』『生態經濟』2009年3月1日。
22. 段海燕『東北亞環境合作模式的前景分析与推進行徑』『環境保護』2009年4月。
23. 東北亞環境管理連合研究項目組『東北亞環境合作』、中国標準出版社、2009年9月。

以上の研究をその内容によって、二種類に大別してみたいと思います。一つは北東アジア地域の環境保全のための国際協調を全面的に論述したものです。もう一つは北東アジア地域の国際協調をある面から、分析してみたものです。

### 三、

まずは第一の研究の中の代表的なものの要旨を発表順に見ましょう。

#### 1. 張海濱『東北亜地区環境合作述評』『当代亚太』1996年8月

この論文はまず、北東アジア地域の環境保全のための国際協調の背景について分析しました。冷戦の終了、国際的環境保全の態勢、北東アジア環境状況の悪化（国境を越える大気汚染、海洋汚染）などがその背景と原因になると分析しました。それから、環境協力の形式、存在している問題と環境協力の意義についても、述べました。環境協力の形式としては、両国間の協力、地域全体としての協力、国際環境組織に主導される協力などを挙げました。問題としては、各国間の経済レベルの差と抱えている環境問題の違いにより、関心点がそれぞれ異なることが挙げられます。日本が最も関心を寄せているのは、やはり大気汚染、酸性雨、地球の温暖化といったような国境を越える環境問題です。韓国も国内環境問題がほぼ解決されることにより、だんだん、地域環境問題に注意するようになりました。それに対して、途上国の中国にとって重要なのは、なんといってもまず国内の環境問題を解決しなければならないということです。環境保全のために協調する意義について、次の二点をあげています。

- (1) 地域間の環境協力によって、北東アジアの環境問題が徐々に解決される見通しがつきます。
- (2) 環境協力によって、北東アジア各国間の相互理解を促進することができます。

#### 2. 徐嵩齡『中国—東北亜国家之間的环境合作：状況分析与評価』『東北亜論壇』2002年2月

この論文はまず、北東アジア環境協力の成果を認めました。その第一として、環境共同体意識が形成されつつあるということです。第二は、北東アジア区域の環境産業と環境市場が迅速に発育し発展しつつあるということです。その次に、中国は今後の協力のなかで、もっと協力項目の質量と効率を重視すべきであること、中国経済実力の増長につれて、中国はこれから、もっと主導的で積極的な役割を果たすべきであることを指摘しました。最後に、論文は環境協力の意義と展望について、「環境協力は国家関係を改善することができる一種の粘着剤である。環境協力は全面的に北東アジアの生態環境を改善できると同時に、政治環境をも改善できるということも期待されておる。」というふうに述べました。

#### 3. 元東郁『東北亜地区環境合作的現状与方向：権力、利益和知識的相互作用研究』（北京

大学博士学位論文) 2002年 6月

この論文は権力・利益・知識の相互的な作用から、北東アジア環境合作の現状と方向について、全面的な分析をしました。論文は「環境問題」が国際社会の協力と衝突を引き起こすひとつの重要な問題で、それは軍事安全、経済問題と一緒に国際政治における注目される話題となったと指摘します。北東アジア環境問題の特徴と発展の帰趨から見ると、環境問題をめぐる地域協力は長期性と複雑性があると分析しました。

4. 趙光瑞『東北亞区域環境問題的制度探源与解決对策』『東北亞論壇』2003年9月20日

論文は北東アジア地域の国境を越える環境問題が主として、砂嵐及びそれと関連がある生態環境問題、大気汚染問題、海洋汚染などであると指摘しました。また、北東アジアの環境問題がすでに部分的に地域化しグローバル化したこと、地域環境問題が北東アジア各国をひとつの「汚染共同体」にしたこと、地域協力は北東アジア区域の環境問題を解決する有効的なルートであると指摘しました。

5. 李月美『東北亞環境合作研究』(青島大学修士学位論文) 2006年5月

修士学位論文であるこの論文は北東アジア地域が高度経済発展を成し遂げたと同時に、酸性雨、砂嵐、海洋汚染などのような嚴重な環境問題も生んだと指摘しました。そして、これらの環境問題は一カ国だけの力では、もう解決できないから、その地域の多国間の協力が必要であると述べました。また、北東アジア環境協力は今まで、すでに「多ルート、各レベル、多領域」のような態勢を整えてきましたが、持続可能な発展を有効に進めるための地域協力のシステムがまだ不十分であるというような問題があると述べました。論文は最後に、「今後、北東アジア環境協力の制度化を目指し、制度化された環境協力により、北東アジア地域の環境協力システム、ひいては、北東アジア環境共同体を作ることが、これからの北東アジア協力の必要な選択であり、未来の発展の帰趨である」というふうにとまとめました。

6. 郭延軍『東北亞環境安全研究』(山東大学博士論文) 2007年4月

この論文は「環境安全」という言葉をキーワードに、地区主義の視野から、北東アジアの環境問題を論述しました。地区主義が北東アジア環境安全の協りに理論基礎と実践の基礎を提供した。一方、北東アジア環境安全の協力も地区主義の発展の重要な推進力になっていると筆者は述べています。「環境安全」という言葉について、「環境状況変化により、世界平和と安定が破壊されつつあることに有効に対応する過程である。生態安全、緑色安全とも称される」と筆者は定義しています。領土問題、戦争行為の歴史評価、軍備拡張などのような伝統的な安全問題は国の核心利益に関わる問題で、敏感なものであるから、その方面から協力することは難しいと思われるが、それに対して環境安全問題はそれほど敏感な問題ではないので、この非伝統的な領域で協力することが可能であると筆者は指摘しました。現在、北東

アジア地域に存在する環境問題としては、水の汚染、大気汚染、核廃棄物の汚染、二酸化硫黄と炭素の酸化物による酸性雨、土壌の砂化、海洋資源の減少、気候変化などがあり、そのうちもっとも著しいのは国境を越える大気汚染と海洋汚染であると指摘しています。現在の北東アジア環境協力状況についてみると、北東アジア環境協力の歴史がそれほど長くないにもかかわらず、各レベル、多ルートでの協力ができてきたと言える。たとえば、北東アジア環境協力高級事務レベル会議、環日本海環境協力会議（NEAC）、中日韓三国環境部長会議、北西太平洋行動計画（NOWPAP）、アジア太平洋準地域環境政策対話会、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）などがあります。今後の北東アジア地域の環境協力について、筆者は「環境安全協力共同体」を設けて、多国間の環境協力を制度化すべきであると述べました。

#### 7. 東北亜環境管理連合研究項目組『東北亜環境合作』、中国標準出版社、2009年9月

この本は北東アジア地域の過去の十何年間にわたる環境協力の道程について全面的に回顧しました。北東アジア地域の環境協力によって成し遂げられた成績を肯定的に分析しています。北東アジア地域の環境協力が北東アジア地域の国家間の相互交流と理解を強め、北東アジア地域の環境保全に貢献したと評価しています。その将来に対しても、それなりの予測をしています。これから北東アジア地域の環境協力の効果を一層上げるために、いままでの協力システムをコミュニケーションの増強、協力資金の保証、協力システムの制度化などの面から、改善すべきであると建言しました。

### 四、

次は、第二の研究の主なものを発表順に見ましょう。

#### 1. 余維海『中日環境合作述評』『日本研究』2006年第3号

この論文は中日両国の環境協力の仕組み、ルート、内容及び存在している問題を分析しました。

中日間の環境協力により、両国の関係が改善され、「東亜共同体」の形成にも有益になるだろうと述べました。

#### 2. 佟新華『基于清潔開展機制的東北亜環境合作研究』（吉林大学博士学位論文）2007年

この論文は「クリーン開発メカニズム」（Clean Development Mechanism, 略称：CDM）に基づき、北東アジア環境協力の可能性を検討しました。

#### 3. 丁金光『国際環境外交』、中国社会科学出版社、2007年1月

この本は「国際的環境外交」について論述した本ですが、その第9章では、専ら「北東アジア環境合作」というテーマで、北東アジア環境協力の発展過程、現実動力、制約要素、未来について、論述しました。

4. 陳霏『中日韓酸雨問題合作研究』（青島大学修士学位論文）2007年6月

この論文は中日韓三国が酸性雨を解決するための協力を論述し、その過程、特徴、及び中日韓のそれぞれの役割、貢献、態度、立場などについて、分析しました。

5. 張海濱『中日関係中的環境合作：減震器還是引擎』『亜非縦横』2008年第2号

この論文は中日両国の環境協力が中日関係を改善し、促進する面で重要な役割を果たしていると述べました。筆者は中日間の環境協力を中日関係の「減震器」であると例え、また、今後中日関係を改善し、促進することができるエンジンになるだろうと予測、期待しています。

6. 高莹『中日環境合作研究』（青島大学修士学位論文）2008年5月

論文は中日両国の間に存在している環境問題、中日環境協力の現状、問題、未来について、分析しました。

7. 王朝梁『論中国与東北亜隣国就解決跨境酸雨汚染問題的區域合作機制』『河北大学学报』（哲学社会科学版）2008年12月25日

論文は北東アジア地域が酸性雨を解決するための各種の協力を分析しました。

8. 董立延、于洋『東北亜区域環境合作对推動東北振興的作用』『社会科学戦線』2009年2月1日

論文は北東アジア地域の環境協力が中国東北地区の工業基地の振興にも有益になると分析しました。

9. 郭印『中日韓三国開展環保NGO交流与合作的探索』『生態經濟』2009年3月

論文はNGOという視野から、中日韓の環境協力について、分析しました。北東アジア地域の環境協力においては、NGOとNPOの役割が期待されると筆者は強調しました。

以上、北東アジア地域の環境保全と国際協調をめぐる中国近年の研究について簡単に紹介してみました。まとめてみますと次のことが窺えると思います。それは環境保全が中国ではますます重視されるようになったことを背景して、北東アジア地域の環境保全の国際協調が中国では大きく評価・期待されるようになったということです。その要因としては、第一

に、環境問題は一カ国の問題にとどまるような問題ではないので、多国間の協力が必要である、特にこの方面における進んだ技術力と豊富な経験を持つ日本、韓国との協調が不可欠であると認識したためです。第二に、こうした環境面での協調を基礎にして、国と国との関係を改善し、相互理解と交流を深めることができるだろうと考えているからです。第三に、北東アジア地域の環境保全の国際協調は、中国東北地方の企業の振興にも有益な結果をもたらすと期待されているからです。